

21th century

21世紀に
駆けるトップ

猪子 進 氏

(社)日本グラフィックデザイン協会 会員

(有)猪子デザイン研究室 代表

(高松市宮脇町1-7-3)

郷土愛と磨かれた斬新なデザイン力でポスター・パッケージなどの分野でレベルの高い仕事をこなす



「県政はデザインなり」

今は亡き当時の金子正則知事が見事に喝破した言葉だが、県庁本庁舎を俊鋭建築設計家の丹下健三氏に依頼、大きな話題を集めた。その頃県庁に在籍していた父親の猪子斗示夫氏の長男で、幼少時から絵心を持ちその世界に興味を抱いた。父が絵を描き文筆をよくしたというキャリアが、以心伝心で伝わったのかはたまた天賦の才があったのか、何の抵抗もなくデザインこそ自分の生きる道とばかり、学卒後助走しつつデザイングループで仲間とともに研鑽。

26歳の頃、月刊「ナイスタウン」を立ち上げた吉田道敷氏の依頼もあって参画。レイアウトなどデザイン面を担当して基盤づくり貢献した。「好きだったからできたのでしようね。3年間は2足のワラジを履いて日々忙しくしていましたよ」しかし、1978年ようやく独立を敢行し現在の会社を設立した。様々な仕事をこなす中で才能は磨かれ、育まれ、グラフィックデザインの世界で地場企業との結びつきを強め多くの結果を残した。

斬新な発想力と感性は類い希な作品を次々と生み、特にものづくりのデザインには新境地を拓き注目される存在となった。

訴求力の強い商品でしかも購買者の心を刺激するもの、これは強い意欲を持って取り組み食品、化粧品、酒類などのパッケージ、キャリアバッグ、包装紙などに進境著しい作品を残した。マルヨシセンターのプライベートブランド商品群からとうふうどん、料亭二蝶の万福ごはん、佃煮セット、魚寿司、JR四国のスープレックスシリーズなど数多い。

県の仕事も多彩なものを手掛け、県外向け広報誌「さぬき野」などは、新生ことでのCI導入。イールのキャラクターからすべてのデザインを担当。暗いイメージを一新することに成功したのは大きな仕事だった。デザイン力のパワフルな効能を知らしめた一幕でもあった。

観光ポスターなどグラフィック作品も枚挙に暇がないが、ますます磨きのかかった仕事をこなしている。

「初期の頃県総合福祉会館のVI計画を担当したのが、今一番思い出に残っています。いろんなパートナ―と出会いが成果につながっています。これからも香川の存在感を高めるため、いろんな仕事をしたい。」

個展、出展も多く円熟期を迎え期待度も高い。中京商高卒。54歳。